様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００００４８

研究課題名（和文）アーヴァシュヤカ文献を中心とする「身体放棄行」というジャイナ教瞑想法の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of "kayotsarga" with special reference to Avasyaka literature

研究代表者
河崎　豊（Kawasaki, Yutaka）

東京大学・附属図書館・助教

研究者番号：７０３６２６３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：我々は以下の研究に従事した。(1)カーヤ・ウトサルガ（身体を不動にさせて一定の姿勢を保ったまま瞑想を行う修行）についてまとまった情報をもつ最古の文献『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』第19章を、その諸注釈などを参照しながら読解し、学術的な訳注研究を世界に先駆けて公表した。(2)中世に著わされたジャイナ教の教理書および説話文献を取り上げ、そこに現れるカーヤ・ウトサルガの概念を検討した。(3)初期仏教文献における「カーヤ（身体）」の用例を網羅的に検討した。(4)『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』に出現する瞑想の定義や、カーヤ・ウトサルガの有する現世利益的な側面について個別の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、本格的な研究が完全に欠落していたカーヤ・ウトサルガの観念を多角的な視点から検討したものであり、その意義は以下のように纏められる：(1)『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』第19章の解読研究を、諸注釈や類似記述を有する他の文献と共に比較して行った。これは世界的に見ても先駆をなす未開拓の研究であり、今後この方面の研究にとって基盤となる役割を果たす。(2)同じくこれまで手薄であったジャイナ教の瞑想に関する研究分野に新たな情報を追加し、今後の新たな成果の創造へと導くものである。(3)言語学や宗教学、人類学などの関連諸分野にも有意な資料を提供したことで、波及的な効果を与える可能性がある。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we performed the following research: 1. By referring to commentaries, we read and interpreted Chapter 19 of the Avassayanijjutti, which is the oldest text containing comprehensive information about kayotsarga (a meditation practice where one abandons the body by remaining motionless in a fixed posture), and we pioneered the publication of a scholarly translation and annotation of this text to the world. 2. We examined the concept of kayotsarga as it appears in the doctrinal texts and narrative literature of Jainism written in the medieval period. 3. We comprehensively studied the occurrences of the term kaya (body) in early Buddhist literature. 4. Additionally, we conducted individual studies on the definition of meditation found in the Avassayanijjutti, the worldly beneficial aspects of kayotsarga, and so on.

研究分野：ジャイナ教

キーワード：ジャイナ教　瞑想　カーヤ・ウトサルガ　『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

ジャイナ教は，修行法として肉体的な苦行と同様に瞑想も重視する．この両輪を包含する行法にカーヤ・ウトサルガ（「身体の放棄」）と呼ばれるものがある．両腕を垂らし，指を地に向け立つマハーヴィーラ像があるが，これが典型的なカーヤ・ウトサルガである．外的な艱難辛苦にさらされても不動の姿勢を保ち（＝苦行）瞑想するものである．僧尼に必須の日課であり，戒律違反に対する滅罪儀礼，像供養，葬儀の場など，多彩な状況で実践される．近年に白衣派テーラパンティー教団が開発したプレークシャー瞑想では身体の弛緩を目指す技法に変化し，身心の苦痛のケアとしての応用も模索される．

しかし，そもそもジャイナ教における瞑想技法の研究がこれまできわめて手薄であったことも相俟って，カーヤ・ウトサルガに対する専門的な研究はこれまで殆ど行われてこなかった．数少ない記述の情報は，白衣派のヘーマチャンドラ（12 世紀）や空衣派のアーシャーダラ（13 世紀）など中世の文献に偏る．またそれらを詳細に検討した研究はなく，それら以前の資料を用いた研究は皆無といった状況であった．カーヤ・ウトサルガが元来いかなる観念の下でどのように実践されていたか，いかなる機能を果たすのか，身体と瞑想はどう関わるのか，中世から現代のカーヤ・ウトサルガ観へどう展開したか，他宗教の瞑想法といかに相違するのか，こういった諸問題は今なお等閑視され続けている．

２．研究の目的

そこで本研究は，仏教やヒンドゥー教の資料も活用した多角的な比較研究への将来的な展開を見据えつつ，カーヤ・ウトサルガ研究において十分に検討されてこなかった古資料を中心に据えた研究を第一に行うことによって，文献学の見地からジャイナ教におけるカーヤ・ウトサルガ観の総合的な解明を目指す基盤を作ることを目的とするものである．

３．研究の方法

本研究は文献学的手法を用いて，カーヤ・ウトサルガもしくはジャイナ教の瞑想法を詳細に説く文献群を主たる資料とする．就中，白衣派ジャイナ教の『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』（以下，ĀvN）第 19 章は，カーヤ・ウトサルガを詳細に説く最古の文献であるにも関わらず批判的な研究が行われてこなかったこと，その一方で最近に信頼すべき校訂本が公表され（Kusumaprajñā, *Āvaśyaka Niryukti* khāṇḍa2. Lāḍaṇūṃ: Jaina Viśva Bhāratī, 2017），数種類の古注釈も利用可能であることから，本研究の主たる対象とすることが適している．そこで本研究では，

（１）9 世紀頃に著されたと考えられるハリバドラ・ヤーキニーマハッタラによる注釈を主に参照しながら，ĀvN 第 19 章の訳注研究を試みる．

を主軸としながら，派生的なテーマとして

（２）ĀvN 第 19 章とパラレルの内容を有することが早くから指摘されている，空衣派聖典のひとつ『ムーラーチャーラ』第 7 章を検討する．
（３）白衣派ジャイナ教聖典および初期仏教聖典（特にパーリ仏典）における「瞑想」あるいは「身体」の用例を検討する．
（４）中世ジャイナ教における教理書などの文献におけるカーヤ・ウトサルガに関する記述を検討し，ĀvN 第 19 章の記述との相違を検討するための素材を作成する．
（５）これまでのジャイナ教研究史における瞑想，あるいはカーヤ・ウトサルガに関する研究などの暫定的な文献一覧を作成することで，今後の研究の土台作りを行う．
（６）その他，個別の研究を行う．

を設定する．

４．研究成果

上「研究の方法」で示した 1 から 5 の諸成果の一部は，『Kāyotasarga 研究資料集』と題した最終年度の報告書として紙媒体で出版したほか，筆者の Academia.edu 上でも公開済である．ここではまず同報告書の概要を示し，そこから漏れるものについては「その他」と題して一括して報告する．

（１）『Kāyotasarga 研究資料集』について

当該報告書は五つのパートで構成される．以下，簡単にその概略を示す．

①「ĀvN XIX・ĀvBh XIX 註解」

上で述べたように，本研究課題はジャイナ教の瞑想論で重要な位置を占めながらも等閑視さ

れてきたカーヤ・ウトサルガについて，まとまった情報を持つ最初の文献である『アーヴァッサヤ・ニッジュッティ』第 19 章の総合的な研究を意図していた．本章はその第 19 章と，第 19 章に対する作者不明の韻文注バーサの翻訳研究である．

和訳を作成するにあたっては，まず河﨑がニッジュッティ・バーサと，それらに対しハリバドラ・ヤーキニーマハッタラが著したとされる注釈の下訳を準備した．その下訳は，定期的なオンライン研究会において研究分担者（藤永伸，名和隆乾）および研究協力者（是松宏明）により修正が加えられた．本章はその修正版を基本とし，公表にあたって再度かなりの修正を行った．

註解については，いたずらに紙幅を増やすことを恐れて，基本的に詩節の内容の理解に資すると思われるものに限った．よく知られているように，第 19 章は空衣派聖典である『ムーラーチャーラ』第 7 章と並行箇所を有する．その点は註解において適宜指摘した．第 19 章 1550 詩節の註解は膨大なため，別に「ĀvN 1550 への注記」と題し独立させた．

②「Vyavahāra Sūtra, Bhāṣya, Vivaraṇa における kāyotsarga の用例」

研究分担者の藤永伸が担当した．白衣派ジャイナ教聖典中，教団運営と僧尼の生活規則を定めるチェーヤスッタというカテゴリ，仏教的にいえば律にあたる一群の経典のひとつである『ヴァヴァハーラ』に対する作者不明のプラークリット韻文釈『バーシャ』（7 世紀？），そして『ヴァヴァハーラ』と韻文釈に対するマラヤギリのサンスクリット注釈（12 世紀）に現れるカーヤ・ウトサルガの全用例を抽出し一覧にしたものである．ジャイナ教の律的な側面におけるカーヤ・ウトサルガの位置づけについては，単に僧尼の犯した日常的な違反を払拭する行（プラーヤシュチッタ）の点でしかとらえられてこなかった．指摘された全用例をつぶさに検討することで，カーヤ・ウトゥサルガの新側面を発見しうる可能性があろう．

③「ジャイナ教白衣派古層聖典における kāya-の用例一覧」

研究分担者の名和隆乾が担当した．タイトル通り，白衣派聖典のいわゆる seniors における kāya-の用例を抽出し，一覧としたものである．ジャイナ教における kāya-の概念についての研究も筆者が知る限りきわめて乏しく，今後この方面の研究を進める者にとって貴重な情報源として機能することを期待したい．

④「ジャイナ教空衣派における瞑想 ― シュバチャンドラ著『ジュニャーナールナヴァ』を中心に ―」

研究協力者の是松宏明が担当した．『ジュニャーナールナヴァ』は，ヘーマチャンドラが『ヨーガシャーストラ』を著した際に依拠した資料のひとつともされ，ジャイナ教にタントラ的行法を導入するなど，ジャイナ教の瞑想法の歴史においてきわめて重要な役割を果たしたと目される文献である．しかしその重要度に比して研究は極めて少ない．本課題に協力者として参加した是松はその『ジュニャーナールナヴァ』を主な研究対象とする気鋭の若手である．彼は 2023 年 3 月 25 日に論文「ジャイナ教空衣派における瞑想 ― シュバチャンドラ作『ジュニャーナールナヴァ』を中心に ―」によって東洋大学より博士号（文学）を授与された．本章はその論文の骨子をまとめたものであり，本資料集の有する諸情報を補強する．彼の博士論文は東洋大学学術情報リポジトリで公開されている（最終アクセスは 2024 年 1 月 16 日）：
https://toyo.repo.nii.ac.jp/records/14913

⑤「ジャイナ教の瞑想・ヨーガに関する研究書等の暫定的一覧」

研究代表者の河﨑豊が担当した．ジャイナ教の瞑想やヨーガなどを対象とする二次文献の一覧である．ここでいう二次とは，原典の校訂のみで構成される資料以外の全てを指す．収録した二次文献は，この科研費の研究期間で筆者が実見したものに限られる．扱う内容は古典，現代，専門，啓蒙，文系，理系を問わない．理系という場合は瞑想の医学への応用などを想定するが，いわゆる「ジャイナ教は科学的である」という言説のもとに現れるこの手の論文の公表は洪水的であり，網羅したとは思えない．現代インド諸語による資料の情報収集はいっそう困難であって，多くの論考を見落としているであろう．以上のように欠陥を含む書誌だが，一方でこの手の書誌はいまだ世の中に存在しないことを鑑みて，完璧なジャイナ教書誌が作成されるまでの暫定的なものとして公表した次第である．

（2）個別の研究

①ĀvN 第 19 章における瞑想の定義

第 19 章には，瞑想について 2 つの異なる定義がある．ひとつは，「瞑想とは，48 分以内に心が一点に集中する状態である」（1463 節）であり，もうひとつは，「瞑想には，身体的，言語的，思考的という 3 種類がある」（1468 節）である．瞑想者の心にのみ関係する第 1 の定義と，身体的・言語的活動にも関係する第 2 の定義が，なぜ矛盾しないのかを考察した．次に，身体的瞑想と言語的瞑想が何を意味するのかを考察し，最後になぜ瞑想に関するこのような議論が必要なのかを検討した．その成果は『印度學佛教學研究』71 巻 1 号に「Āvassayanijjutti 19 章の瞑想定義」と題して掲載された．

②カーヤ・ウトサルガの現世利益的側面

第 19 章 1550 詩節は，カーヤ・ウトサルガの実践によってもたらされる現世の果報の典型を，「この世では①スバッダー②ウディタ王③長者の妻④ソーダーサ⑤犀の固定」であるという．各鍵語がいかなる意味をもち，カーヤ・ウトサルガがどのような機能を発揮して現世の果報をもたらすかを，ĀvN 自身は語らない．そこで諸注釈とくにハリバドラ注とチュールニの説明に基づきつつ，カーヤ・ウトサルガの実践がいかなる現世の果報をもたらすかを検討して，ジャイナ教が考えるカーヤ・ウトサルガの現世利益的側面の典型を検討した．その梗概は上 4.2.1 の報告書で示している．

③中世ジャイナ教文献におけるカーヤ・ウトサルガ

これについて，まず中世教理書に基づくカーヤ・ウトサルガの観念をめぐって，研究分担者の藤永伸がヘーマチャンドラ作『ヨーガシャーストラ』にみられるカーヤ・ウトゥサルガの観念を検討し，その成果が以下の論文で公表されている：

“How and Why Do the Jains Abandon Their Bodies?: Kāyotsarga according to Yogaśāstra of Hemacandra.” Bulletin of the Institute of Shin Buddhist Culture 32 (2024): 27-33.

また，931〜932 年にかけて編纂が終了した，空衣派のハリシェーナによるジャイナ教説話集『ブリハット・カター・コーシャ』に現れるカーヤ・ウトサルガの全用例を河﨑が検討し分析した結果は，2024 年夏に出版される『ジャイナ教研究』31 号で掲載される予定である．

④仏典におけるカーヤの用例

研究分担者の名和隆乾が，パーリ仏教聖典における kāya-の概念を検討した．その成果の一端が『印度學佛教學研究』72 巻 2 号で掲載されている：

「パーリ三蔵における kāya-（「集まり」）を後肢とする複合語について」『印度學佛教學研究』72 巻 2 号 (2024): 941-935.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 河崎豊	４．巻 28
２．論文標題 布の裁断は暴力か	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ジャイナ教研究	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 河崎豊	４．巻 71
２．論文標題 Avassayanijjutti 19章の暝想定義	５．発行年 2022年
３．雑誌名 印度學佛教學研究	６．最初と最後の頁 474-468
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 河崎豊	４．巻 27
２．論文標題 出家者と「嘘も方便」	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『ジャイナ教研究』	６．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 藤永伸	４．巻 32
２．論文標題 How and Why Do the Jains Abandon Their Bodies?: Kayotsarga according to Yogasastra of Hemacandra	５．発行年 2024年
３．雑誌名 真宗文化	６．最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 名和隆乾	４．巻 72
２．論文標題 パーリ三蔵における kaya-（「集まり」）を 後肢とする複合語について	５．発行年 2024年
３．雑誌名 印度學佛教學研究	６．最初と最後の頁 941-935
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　3件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 Avassayanijjutti XIX における「身口意の瞑想」について
３．学会等名 日本印度学仏教学会第73回学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 近年のジャイナ教戒律研究の動向と今後の展望
３．学会等名 日本印度学仏教学会第73回学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 『ジャイナ教聖典選』の出版によせて
３．学会等名 ジャイナ教研究会第37回研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 衣の裁断は暴力か
３．学会等名 日本印度学仏教学会第七十二回学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 嘘も方便 ― ジャイナ教における ―
３．学会等名 東洋大学大学院文学研究科インド哲学仏教学専攻大学院生発表会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 物語（カター）文献におけるカーヤ・ウトサルガの表象
３．学会等名 ジャイナ教研究会第38回研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 河崎豊
２．発表標題 カーヤ・ウトサルガと現世利益
３．学会等名 日本印度学仏教学会第74回学術大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 河﨑豊
２．発表標題 ジャイナ教 ― 仏教との類似性，現代的価値
３．学会等名 Lecture Series on Jainism
４．発表年 2023年

〔図書〕　計2件

１．著者名 河﨑豊、藤永伸、上田真啓、藤本有美、堀田和義、八木綾子、山崎守一	４．発行年 2022年
２．出版社 国書刊行会	５．総ページ数 572
３．書名 ジャイナ教聖典選	

１．著者名 河﨑豊、藤本有美、藤永伸、堀田和義	４．発行年 2022年
２．出版社 Uehiro Project for the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System	５．総ページ数 134
３．書名 “New and Rare Words” Collected by Helen M. Johnson from Hemacandra’s Trisastisalakapurusacaritra	

〔産業財産権〕

〔その他〕

この他，本研究課題で得られた諸成果のうちのいくつかをまとめたものとして，本文でも記したように以下のものを出版している： 河﨑豊『Kayotsarga研究資料集』2024年.

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	藤永　伸 (Fuijnaga Shin) (70209071)	京都光華女子大学・付置研究所・研究員 (34307)	
研究分担者	名和　隆乾 (Nawa Ryuken) (20782741)	大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・講師 (14401)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	是松　宏明 (Korematsu Hiroaki)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関